

日刊 建設タイムズ

発行所

宇治市横島町落合

TEL 0774-21-0011

FAX 0774-21-0022

http://www.kyoto-kensetsutimes.co.jp
e-mail:info@kyoto-kensetsutimes.co.jp

購読料(1カ月)7,560円(税込)

建物診断にもお気軽にご相談ください！

0120-1271-8856

京都府右京区西院西田町94番地

TEL(0775)326-1112
FAX(0775)326-1150

養正市営住宅団地再生計画

既存棟解体工事を入札

更新棟1・2は第4期予定

京都市

老朽化などの対策として養正市営住宅(左京区)で団地再生計画を進める京都市は、既存棟解体に向けて、51号棟ほか1棟解体撤去工事と7号棟ほか2棟解体撤去工事を一般競争入札で公告した。

今年度、解体後には更新棟1と更新棟2の建築工事が第4四半期に工事発注される見通しだ。

養正市営住宅は、1950年代から70年代に建設された住棟が多くあり、老朽化が進んでい



養正市営住宅のイメージ

る。加えて、入居者の高齢化が進行しているなど住棟の適切な維持管理やコミュニティ形成の観点から課題があり、団地再生計画に取り組んでいる。団地再生計画対象面積は、約6万2000㎡。住棟数11棟、総入居戸数は317戸。

住棟は、市営住宅ストック総合活用計画では、一部の住棟を継続活用(耐震改修などの改善は必要)としていたが、計画見直しが行われ、21号棟以外の住棟は全棟除却し、更新棟を3棟建設する。更新棟の建設は「公共施設が集まるエリア」の13号棟敷地、「閑静な住宅街エリア」の51・52号棟敷地、「駅に近いエリア」の7・8・10号棟敷地にそれぞれ建設する。

51号棟ほか1棟解体撤去工事(左京区田中玄京町43番地ほか)は、解体Aランク(JV)を対象に一般競争入札を公告し

ており、28日に開札する。既存建物等解体撤去工事とその他施設等解体撤去、舗装等解体撤去、地中埋設物、埋設配管解体撤去工事などを行う。予定価格は7440万円。工期は6カ月。

7号棟ほか2棟解体撤去工事(左京区田中馬場町151番地ほか)も、解体Aランク(JV)を対象に一般競争入札を公告しており、8月23日に開札する。既存建物等解体撤去工事とその他施設等解体撤去、舗装等解体撤去、地中埋設物、埋設配管解体撤去工事などを行う。予定価格は8028万円。工期は6カ月。

更新棟1その他建築工事(左京区田中馬場町)は、予定価格の概算額区分4億円以上、WTO対象未済(JVの可能性ありの案件)。第4四半期の発注を予定。工期は20カ月を設定している。

更新棟2その他建築工

事(左京区田中馬場町)も、予定価格の概算額区分4億円以上、WTO対象未済(JVの可能性ありの案件)。第4四半期の発注を予定。工期は20カ月を設定している。

設計業務は、新2号棟及び新3号棟(仮称)新築その他工事設計業務として昨年度に入札しており、内藤建築事務所が担当している。落札金額は1億0400万円(予定価格1億1020万円)。

委託期間は、2023年3月31日まで。

委託概要は、(新2号棟(仮称)新築工事)基本設計及び実施設計がRC造地上5階建、延約3400㎡(61戸)。その他屋外付帯施設、電気及び機械設備一式。(新3号棟(仮称)新築工事)基本設計及び実施設計がRC造地上5階建、延約3300㎡(60戸)。その他屋外付帯施設、電気及び機械設備一式。

解体設計については、(7号棟解体撤去工事)(実施設計)がRC造地下1階地上4階建、延約490㎡。屋外付帯施設、電気設備、衛生設備。(8号棟解体撤去工事)(実施設計)がRC造地上4階建、延約1300㎡。屋外付帯施設、電気設備、衛生設備。

このため、橋面舗装打ち換えや橋面伸縮装置取替工、塗装塗替え工、橋脚耐震補強工(P4)他などの補修工事に着手する。

総事業費は8億2000万円。同橋梁は、8径間の大規模な橋梁であるため、2019年度から23年度頃にかけて補修工事を進める。

白瀬橋は、橋長318mのうち、補修するのが271m。幅員は13m(17.5m)。逆T式橋台と壁式橋脚の下部工で構成され、上部工は8径間単純純荷重合成板桁橋を採用。

維持修繕計画は東洋技研コンサルタントが担当。

白瀬橋の道路メンテナンス 橋梁塗装工を計画

今年度事業費1.2億円

中丹東土木

綾部インター線白瀬橋の道路メンテナンス事業を計画する中丹東土木事務所は、今年度事業費1億2000万円を投じて

地球にやさしい新工法

ウルトラウッドコラム工法

ウルトラウッドコラムはCO2排出削減に貢献しています

新しく開発されたウルトラウッドコラム工法は柱状改良杭の中心に木杭(木製芯材)を挿入することにより同等の支持力を得ながら、改良径及び改良長を、小さくすることが可能となりました。そのことにより、セメントの使用量が少なくなり、CO2の排出削減が出来るようになりました。使用する木製芯材は、日本の森林を守るために国産の「すぎ」や「からまつ」を使用し、木製芯材そのものは自然材であるので原材料の生産にCO2は排出しません。また、国産材を使用し、右図のように「森の循環」に少しでも貢献することができます。

特長① ローコストで十分な支持力を確保
「ウルトラウッドコラム工法」は改良径が小さな径で大きな支持力を発揮します。そのため従来の工法より必要な改良体の改良径や改良長が縮小され、ローコストでの施工が可能となります。

特長② 確かな品質管理や施工管理
ミキシングテスター(比抵抗測定器)で攪拌状況を確認し、サンプラーでコラムの強度などをチェックします。また施工管理装置により、コラム1本ごとの深度やスラリーの量などを記録します。

特長③ 狭い敷地でも対応可能
コラム長さが最長4.5mのため建柱車などの小型重機で施工ができ、狭い場所にも進入することが可能です。また、施工現場に合わせて他の施工機械も選択できます。

特長④ 攪拌効率がよく、短工期で施工可能
独自技術により高い攪拌効率を実現。工期の短縮が可能となります。

(財)日本建築総合試験所 建築技術性能証明 GBRC 第09-29号 取得工法

お問合せは……ウルトラコラム工法協会
〒615-8013 京都市西京区桂清水町37-3
山下工業株式会社
TEL 075-383-5445 FAX 075-383-5450
http://www.yamashitaindustry.co.jp
E-mail: info@yamashitaindustry.co.jp